

一般社団法人日本老年歯科医学会 2018年度第3回理事会議事録

日 時： 2018年6月21日(木) 15:10~17:40

場 所： きゅりあん 6階 中会議場

出 席： 櫻井 薫 理事長

羽村 章、下山和弘 両副理事長

佐藤裕二、水口俊介、深山治久、那須郁夫、福島正義、菊谷 武、市川哲雄、菅 武雄

戸原 玄、小野高裕、河相安彦、片倉 朗、眞木吉信、石黒幸枝、松尾浩一郎、渡邊 裕、

岩佐康行、服部佳功、米山武義、高井良招、山崎 裕、阪口英夫 各理事

森戸光彦、山根源之 各監事

陪 席： 上田貴之、北川 昇、杉山哲也、伊藤加代子、飯田良平、堀 一浩、伊藤誠康、潮田高志、
大神浩一郎、中川量晴、高橋一也、梅本丈二、小原由紀、大井 孝、森田一彦、大野友久、
児玉実穂 各幹事

渡邊郁馬 名誉会員

小笠原正、弘中祥司、柏崎晴彦、竹島 浩、植田耕一郎 各新理事

和田 健、宮原康太、赤松那保、尾崎研一郎、水谷慎介、川本章代、遠藤真美、田村暢章
各新幹事

欠 席： 小正 裕、平野浩彦、角 保徳、津賀一弘 各理事

金澤 学、佐川敬一朗、矢儀一智、玄 景華、小林國彦 各幹事

石川健太郎、岡田和隆、阿部仁子 各新幹事

I. 開会の辞

羽村副理事長より、開会の辞が述べられた。

II. 理事長挨拶

櫻井理事長より、参集の御礼が述べられた。また、日本老年歯科医学会第29回学術大会の大会長およびスタッフへの大会準備の御礼、4年間の理事長としての活動へのご支援とご協力に対する御礼がなされた。

III. 大会長挨拶

佐藤理事(大会長)より、参集への御礼と、事前参加登録者数が1100名である旨の報告があった。

IV. 議長選出

定款に則り、櫻井理事長が選出された。

V. 確認事項

1. 定員数の確認

佐藤理事(総務担当)より25名の出席がある旨報告があり、定足数〔定款第32条、理事現在数(29名)の2分の1以上の出席〕を満たしている事が確認された。

2. 配布資料の確認

佐藤理事より配布資料の確認がなされた。

3. 2017 年度第 8・9・10 回理事会議事録

佐藤理事より資料を元に説明があり、確認された。

4. 2018 年度第 1・2 回理事会議事録

佐藤理事より資料を元に説明があり、確認された。

VI. 協議事項

1. 役員等の選任について

1) 代議員の選任について

櫻井理事長より資料を元に説明があり、案の通り 217 名の代議員が選任された。

2) 理事の選任について

櫻井理事長より資料を元に説明があり、案の通り理事が選任された。

3) 委員会委員一覧

櫻井理事長より資料を元に説明があり、案の通り委員会委員が承認された。

佐藤理事より、委任状の発行を行うため、各委員長は委員名簿の確認を改めて行うように依頼がなされた。

4) 支部長一覧

櫻井理事長より資料を元に説明があり、案の通り支部長が承認された。

5) 関係団体役員一覧

櫻井理事長より資料を元に説明があり、案の通り関係団体役員が承認された。

櫻井理事長より、本会の代表として関係団体の活動に参加したり会議に出席したりした場合は、事務局へ随時報告するよう付言があった。

2. 名誉会員の推戴について

櫻井理事長より資料を元に説明があり、川良美佐雄 氏、小正 裕 氏、服部正巳 氏、又賀 泉 氏の 4 名が名誉会員として推挙することが承認された。

3. 2017 年度事業報告及び収支決算について

佐藤理事より資料を元に 2017 年度の事業報告(案)が、那須理事より資料を元に 2017 年度の収支決算(案)の説明がなされた。山根監事より監査報告がなされた。審議の結果、事業報告及び収支決算は案の通り承認された。

4. 2018 年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

櫻井理事長より資料を元に 2018 年度事業計画(案)の説明があり、那須理事より資料を元に 2018 年度収支予算(案)の説明および資料の一部誤記の修正があった。審議の結果、事業計画及び収支予算は修正案の通り承認された。

5. 2018 年度日本歯科医学会会長賞候補者の推薦について

佐藤理事より、櫻井理事長を推薦したい旨発議があり、承認された。

6. 新規入会者の承認について

櫻井理事長より資料を元に説明があり、案の通り新規入会者が承認された。

7. 認定制度関連規則の一部改正について

松尾理事より資料を元に認定医制度規則および研修単位の変更に関する説明があり、案の通り承認された。尚、変更点をホームページ等へ掲載し、会員へ適切に周知して欲しい旨発言があり、その旨対応するとの返答があった。また、認定医、専門医の更新の単位に関して、臨床経験を評価したらどうかとの意見がなされ、次期委員会で検討する旨が確認された。

8. 認知症患者の義歯診療ガイドライン 2018 について

市川理事より資料を元に説明があり、櫻井理事長より、今回のものは義歯のガイドラインのみである旨、承認後にはホームページにて公表される旨の補足があり、案の通り承認された。

9. 「要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン 2017(暫定版)」について

岩佐理事より資料を元に、「要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン 2017」(案)について説明があり、微修正の後にホームページに掲載する旨の補足があり、案の通り承認された。

10. 日本歯科医学会 学術用語集 第2版 編集作業について

眞木理事より資料を元に説明があり、口腔機能低下症を追加する旨、口腔機能発達不全症に関しては小児歯科学会、障害者歯科学会の用語に入っていないことが確認できた場合追加する旨、用語検討委員会で過栄養、介護療養型医療施設、介護療養型老人保健施設は削除しないことに同意を得た後に日本歯科医学会に提出する旨の補足がなされ、案の通り承認された。

11. その他

櫻井理事長より資料を元に、日本歯科衛生士会・デンタルダイヤモンド社共同開発の歯科衛生士向け e ラーニングコンテンツ「口腔機能低下症」制作の協力・監修の依頼があったことが報告され、学会として協力することが承認された。また、歯科衛生士会のみを対象とするのではなく、本会の会員も使用可能にすること、制作される内容については歯科衛生士法等の法令との適合性を含めて学会幹部が十分に確認することが付帯決議された。

VII. 報告事項

1. 会務報告

櫻井理事長より、各理事の活発な活動への御礼があった。また、渡邊郁馬名誉会員から本会へ寄付をいただいた旨、口腔機能低下症の基本的な考え方が英訳されて Gerodontology に掲載された旨、本年ロンドンで開催される IADR/GORG のサテライトシンポジウムを本学会とヨーロッパ老年歯科医学会 (ECG) との共催で実施する旨の報告がなされた。

2. 総務報告

佐藤理事より、資料を元に報告があり、2018年6月16日現在の会員数は賛助会員を含めて3699名と着実に増加している旨の報告があった。また、2018年度定時社員総会の次第の確認が行われた。

3. 学術報告

1) 学術委員会

水口委員長より資料を元に報告があり、「口腔機能低下症」のポジションペーパーを英訳して Gerodontology への英語論文の投稿を行った旨、投稿論文は4月にアクセプトされ、オープンアクセスで公開されている旨の補足があった。次期は、これまでの活動に加えて、在宅歯科診療に関するエビデンス構築に関しても活動していく旨の報告がなされた。

2) 第 29 回学術大会

佐藤理事(大会長)より抄録集を元に説明があり、参加証発行のための QR コードの使用法の補足説明がなされた。

3) 第 30 回学術大会

米山理事(大会長)より資料を元に説明があり、演題の登録期間が 2018 年 11 月 15 日～2019 年 1 月 7 日と例年よりも早くなる旨の補足があり、会員への周知の要請がなされた。服部理事より、前回までは学会のメイン会場とポスター会場が別の建物となる予定であったが、仙台国際センターのみで全て行うことが出来るようになった旨の補足があった。

4) 第 31 回学術大会

水口理事(大会長)より資料をもとに説明があり、学会設立 30 周年記念事業も併せて行う旨、記念式典の実行委員長は河相理事となった旨の説明がなされた。

5) 平成 29 年度老人保健健康増進等事業 報告

渡邊理事より回覧資料を元に説明がなされた。

6) 平成 30 年度老人保健健康増進等事業 採択

渡邊理事より、平成 30 年度老人保健健康増進等事業の「介護保険施設等における口腔の健康管理に関する実施状況の把握及び協力歯科医療機関等の役割に関する調査研究事業」のテーマにおいて、「介護保険施設等における口腔の健康管理に関する実施状況の把握及び協力歯科医療機関等の役割に関する調査研究事業」の課題名で採択された旨の報告がなされた。また、平成 30 年の改定内容の検証、新たな課題の抽出に関して、会員に協力いただきたい旨の補足があった。

7) 平成 29・30 年度 日本歯科医学会プロジェクト研究 中間報告

渡邊理事より資料を元にプロジェクト研究の中間報告がなされた。

4. 編集報告

深山理事(委員長)より資料を元に報告があり、原著論文数が減少しているため、増加策を講じる必要がある旨の補足があった。

松尾理事(次期委員長)より、学会で多くの興味深いシンポジウムが企画されているが、演題が重なっており見られないものがあるのが残念であるとの意見が多く寄せられているため、今後はシンポジウムの内容を総説として学会誌に掲載していく予定である旨の補足があった

5. 財務報告

那須理事(委員長)より資料を元に報告があり、積立金の運用方法については次期委員会で検討していく旨の補足があった。

渡邊理事(次期委員長)より、新たな事業を行う際は外部資金を獲得して欲しい旨の補足があった。佐藤理事より、会費 3 年未納の者は今年度中に支払われなければ退会となる旨の報告がなされた。3 年以上未納の者には年 4 回督促状を送っているが支払われていないため、関係者がリストにいる場合は是非声掛けをして欲しいとの補足があった。今後は 50 音順ではなく所属機関ごとにまとめたリストを作ってはどうかとの意見があった。

6. 各種委員会 2016-2017 年度活動報告および 2018 年度活動報告

1) 教育問題検討委員会

福島理事(委員長)より資料を元に報告があり、「老年歯科医学教育の実態調査」および「教育基準(2015)年」の使用状況の調査を実施し、その結果を老年歯学に掲載した旨の補足があった。小笠原新理事(次期委員長)より、次期は「歯科訪問診療の卒前教育、卒後教育、大学病院の臨床実習実態」「教育基準(2015年度版)の改訂」、「臨床実習項目の検討」を重点項目として活動していく旨の補足があった。

2) 社会保険委員会

菊谷理事(委員長)より資料を元に報告があり、口腔機能低下症が保険収載された旨、「歯科医師と栄養士と一緒に仕事をするための実態調査」を実施した旨の補足があった。

次期は、口腔機能低下症が保険収載されたことに対する効果検証を行うとともに、平成 32 年度の診療報酬改訂に向けて対応していく旨、「歯科と栄養」に関する取り組みを具現化するため活動していく旨の補足があった。

3) ガイドライン委員会

市川理事(委員長)より資料を元に報告があった。

服部理事(次期委員長)より、次期も引き続き、本会事業に関わるガイドライン作成作業を行うとともに、ガイドライン・指針等の充実を図る旨の補足があった。

4) 在宅歯科医療等検討委員会

菅理事(委員長)より資料を元に報告があり、「在宅歯科医療の基本的考え方」を日本歯科医師会に提出して返答待ちである旨、次期は在宅医療のスキルアップの為に開業医、勤務医に向けた活動を行っていく旨の補足があった。

5) 摂食嚥下リハビリテーション委員会

戸原理事(委員長)より資料を元に報告があり、次期は摂食嚥下療法専門歯科医師の質は落とさずに数を増やせるように活動していく旨、関連他学会にも同様の資格制度があるため、連動していけるようにするとの旨の補足があった。

6) 国際渉外委員会

小野理事(委員長)より資料を元に報告があり、次期は ECG、台湾老年歯科医学会 (TAGD) との交流の内容を充実させ、国際セッションなどを企画し、双方の学会に会員が参加できる状況になるように活動していく旨、ECG と共同研究、ポジションペーパー作成を行う協定を結んだ旨の報告があった。

7) 広報委員会

河相理事(委員長)より資料を元に報告があり、ニュースレターのページ数が 4 ページから 6 ページになった旨、次期は専門医数を増加させるために、ニュースレターの内容に専門医活動レポートや専門医研修機関の紹介を追加する旨、SNS などを利用して広報活動を促進する予定である旨の補足があった。

佐藤理事より、本学会ホームページに関して、役員一覧に顔写真を載せるなど、より親しみを持てるものにして欲しいとの要望があった。

8) 研修委員会

片倉理事(次期委員長)より資料を元に報告があり、「口腔機能低下症」の全国周知の為、北日本地区、東京、西日本地区の3か所での研修会を行う予定である旨の補足があった。

9) 学術用語委員会

眞木理事(委員長)より資料を元に報告があり、老年歯科医学学術用語辞典(第3版)を2022年に出版するために準備していく旨の補足があった。

10) 歯科衛生士関連委員会

石黒理事(委員長)より資料を元に報告があり、学術大会の開催案内を作成し、歯科衛生士養成機関・都道府県歯科衛生士会に配布した旨、歯科衛生士の活動啓発を目的としたイラストを作成した旨の補足があった。次期は老年歯科医学分野における歯科衛生士の卒然・卒後教育における問題点の抽出と改善点の検討を行っていく旨の補足があった。

11) 認定制度委員会

12) 認定資格検討委員会

13) 研修機関認定委員会

松尾理事(委員長)より資料を元に報告があり、認定医の人数は順調に増加しているが専門医の人数がほとんど増加していないため、専門医数を増加させるための活動を引き続き行っていく旨の補足があった。また、関係者で専門医を受験する資格がある者がいる場合は、専門医を取得することを勧めて欲しいとの要請があった。

大野幹事(次期委員長)より、次期は日本歯科専門医機構への加盟に向けて、必要事項を検討していく旨の補足があった。

14) 認定医試験実施委員会

高橋幹事(代理)より資料を元に報告があった。柏崎新理事(次期委員長)より、次回の専門医試験は11月24日(土)に大阪歯科大学で行う予定である旨、詳細はニュースレターで連絡する旨の補足があった。

15) 専門医試験問題作成委員会

渡邊理事(委員長)より資料を元に報告があった。高橋新理事(次期委員長)より、良い問題を多く作成してもらっているが、受験者数が少ないので、受験者数を増加させることが重要であるとの補足があった。

16) 多職種連携委員会

岩佐理事(委員長)より資料を元に説明があり、「要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン」を早急に完成させ、学会ホームページに掲載できるようにする旨、「地域包括ケアシステムのフォローアップならびに情報共有化に向けた取り組み」に関して、本年の4~5月に行ったアンケートの結果を第29回学術大会の多職種連携シンポジウムのディスカッションの中で会員に共有する旨、そのシンポジウムでも追加でアンケートを行い、その結果を整理した後にホームページまたは学会誌上に公開する旨、「多職種連携入門研修」を2019年に開催できるように活動していく旨の補足があった。

17) 支部組織・地域保健医療福祉検討委員会

小原幹事(代理)より資料を元に報告があり、次期は支部長不在支部の解消とブロック制の検討、支部セミナー開催時の支援、支部長会開催と委員会主催シンポジウムの企画運営を行っていく旨の補足があった。

18) 学会間連携委員会

服部理事(委員長)より資料を元に報告があり、4学会(口腔内科学会、口腔ケア学会、歯科薬物療法学会、老年歯科医学会)合同口腔乾燥症用語・分類検討委員会がこれまでに2回開催されており、第3回も本学会終了後に品川で行われる旨の補足があった。弘中新理事(次期委員長)より、次期は日本補綴歯科学会、日本顎口腔機能学会との連携も模索していく旨の補足があった。

19) 表彰委員会

米山理事(委員長)より資料を元に報告があり、「優秀口演賞」の名称が「優秀課題口演賞」に変更になった旨、細則第11条を「課題口演は、1課題につき、発表時間7分、質疑応答時間8分とする」に変更した旨の補足があった。次期は、老年歯科医学会賞の選考について選考基準をより明確にし、応募の参考となるようにする旨の補足があった。

20) 規程委員会

高井理事(委員長)より資料を元に報告があり、理事会直前は審議事項が多くなるため、時間的余裕をもって依頼してほしいとの旨の要望があった。阪口理事(次期委員長)からも改めて、審議事項は早めに連絡するようにとの要請があった。

21) 倫理委員会

大野幹事(代理)より資料を元に報告があり、2020年度学術大会から発表に関して必ず倫理審査の申告が必要となることを会員に周知するために、ニュースレターで「倫理に関する基本的な啓発」を連載しており、全9回中2回目まで掲載済みである旨の補足があった。竹島新理事(次期委員長)より、次期はニュースレターへの掲載を継続するとともに、学術大会のサブスライドを利用して、倫理に関する基本的な啓発および研究発表の倫理審査申告について周知していく旨の補足があった。

22) 倫理審査委員会

山崎理事(委員長)より資料を元に報告があり、2018年4月より臨床研究法が発効したことに基づき、倫理審査手順の見直しをする必要がある旨の補足があった。

23) 利益相反委員会

羽村理事(委員長)より資料を元に報告があった。また、規程に基づき、本会終了後に新理事全員からCOIに関する申告書類の提出を要請する旨の補足があった。植田新理事(次期委員長)より、次期も円滑な利益相反運用をすすめ、利益相反に関わる議案について迅速に対応する旨の補足があった。

7. 日本歯科医学会報告

櫻井理事長より資料を元に報告があり、日本歯科医学会より「2040年の歯科イノベーションロードマップ」の作成依頼があり、今後の7年毎の達成目標を立てることが求められており、学術委員会で対応している旨の補足があった。

8. 日本歯科医学会連合報告

櫻井理事長より、日本歯科専門医機構が設立された旨の報告があった。

9. 日本歯学系学会協議会報告

羽村理事より、日本老年歯科医学会の代表として同会理事に任命された旨の報告があった。

2018年6月27日(水)に理事会と講演会があり、櫻井理事長が講演する旨が報告された。

10. 歯学系学会社会保険委員会連合報告

佐藤理事より、歯保連試案の改訂に向けてデータ収集を行っている旨、次期は菊谷理事が担当となる旨が報告された。

11. 日本老年学会報告

櫻井理事長より資料を元に報告があり、第30回日本老年学会総会について、会長候補推薦委員会へ下山副理事長とともに委員として参加している旨の補足があった。第31回日本老年医学会総会が2021年に名古屋で行われることが内定し、本会も併催となることから、大会長の選任を進める必要がある旨の補足があった。また、第31回日本老年医学会総会と同年に日本歯科医学会総会が横浜で開催される予定であり、日本歯科医学会より本会への協力要請があるため対応を検討する必要がある旨の補足があった。IAGG World Congress of Gerontologyの横浜での開催招致活動を行っている旨、加えてIAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023の京都での開催招致の活動を行っている旨の補足があった。

12. 日本歯科医学会報告

羽村副理事長より、第24回日本歯科医学会総会の登録部会長として準備委員に参加しているとの報告があり、9月23日(木)～25日(土)にパシフィコ横浜で開催され、出席人数は3万人を目指している旨の補足があった。

13. その他

櫻井理事長より、デンタルダイヤモンド社から「かかりつけ歯科医のための口腔機能低下症入門」の執筆依頼があり、日本老年歯科医学会監修で、編者が櫻井理事長と水口理事、著者は佐藤理事(次期理事長)と学術委員会の委員等で行う旨が報告された。

森戸監事より、総会資料の目次では在宅歯科医療検討委員会となっているが、実際の資料には在宅歯科診療等検討委員会となっているため、委員会名の確認もしくは変更が必要であろうとの指摘があり、規程集を確認し検討することとなった。

VII. 閉会の辞

下山副理事長より、活発な議論への御礼と閉会の辞があった。

以上